

『邂逅』

毎年、この読書アンケートへの回答が、私自身の覚書になっていますので、例年通り、最近、読んだ本の中から、比較的、印象に残った本の名前を挙げます。もっとも、この1年間の読書体験は、余り実り多くはありませんでした。内容に関するコメントは、これもまた、例年通り、私の教室のホームページの参考資料のページに PDF ファイルとして掲載しておきます（「東京医科歯科大学」＋「病態代謝解析 学」で検索し、トップページを開いたら、左側の欄の参考資料をクリック、Archives の項に 載せてあります）。どの本も Amazon から電子書籍として入手可能です。ただし、「さらに読みたい人へ」に挙げたブルーバックの本は、電子書籍では読みづらいです。数式、図表の多い書籍は、電子書籍には不向きです。

- Yuval Noah Harari. Sapiens: A Brief History of Humankind
- Matt Ridley. Nature via Nurture: Genes, experience and what makes us human
- Bill Bryson. Bryson's Dictionary of Troublesome Words: A Writer's Guide to Getting It Right

「さらに読みたい人へ」

- Simon Singh. Big Bang: The Most Important Scientific Discovery of All Time and Why You Need to Know About It
- Carol Dweck. Mindset - Updated Edition: Changing The Way You think To Fulfil Your Potential
- Matt Ridley. The Rational Optimist: How Prosperity Evolves (P.S.)
- Ariel Rubinstein. Economics Fables
- Elizabeth Kolbert. The Sixth Extinction: An Unnatural History
- Andrea Wulf. The Invention of Nature: The Adventures of Alexander Von Humboldt, the Lost Hero of Science
- 長沼伸一郎. 物理数学の直観的方法 〈普及版〉 理工系で学ぶ数学 「難所突破」の特効薬 ブルーバックス
- 長沼伸一郎. 経済数学の直観的方法 マクロ経済学編 ブルーバックス
- 長沼伸一郎. 経済数学の直観的方法 確率・統計編 ブルーバックス

2017 年度新入生向け推薦図書案内に挙げた本についての注釈

毎年、新入生向けの推薦図書を紹介するのにかこつけて、直近の一年間の読書経験を振り返り、記憶に残った本の名前を挙げてコメントを記述するようになって、三回目です。Web サイトに掲載した PDF を読んでもらえているのかわかりませんが、自分の記録としては役に立ちます。しかし、今回は、あまり書きたいことがありません。それなりの冊数の本を読んだものの、読みかけて興味を失い、読み飛ばした本が多くあります。昨年の『邂逅』に、Tal Ben-Shahar. *Happier: Learn the Secrets to Daily Joy and Lasting Fulfillment* を紹介し、「ハーバード人気講義との触れ込みですが、一読した感想は、「これが人気ならハーバード大学もたいしたことはないなあ」というものでした」と畏れ知らずの感想を書いた上に、「自己啓発本は、適用量を服用するよう注意が必要です」と偉そうに注意書きしたにもかかわらず、その手の本を大量に読みました。”15 Secrets Successful People Know About Time Management: The Productivity Habits of 7 Billionaires, 13 Olympic Athletes, 29 Straight-A Students, and 239 Entrepreneurs”、“The One Thing: The surprisingly simple truth behind extraordinary results”、“13 Things Mentally Strong People Don't Do: Take Back Your Power, Embrace Change, Face Your Fears, and Train Your Brain for Happiness and Success”、“The 8 Traits Successful People Have in Common: 8 to Be Great”など、いずれも、なぜか、数字が含まれる題名とやたらと長い副題がついています。言い訳をすると、教室には就職活動をする大学院学生が少なからずいて、彼らに社会で成功する方法をアドバイスしてあげたいという妙な、そして、学生からすると有り難た迷惑かもしれない親心に駆られたからとも言えないこともありません。その流れの本の中で一つ記憶に残ったのが、「さらに読みたい人へ」のリストにあげた”Mindset”です。Stanford 大学の心理学教授の本です。社会に出て成功するためには、単に学業成績が良いのでは足りず、Mindset や Grit や Emotional Intelligence が必要とされる、ないしは、より厳密に表現すると、そのような資質が社会的成功には必要だと信じる人が増えている事実は、学生のうちに知っておく方が良いと思います。

”Sapiens”

紹介の順番が後先になりましたが、邂逅本文にあげた”Sapiens”は日本語訳も広く読まれ、昨年のベストセラーの一つになりました。ヒトが生存競争に勝ち残り地球上で支配的立場を確保したのは何故かが、多面的に論じられています。なかでもフィクションの共有を通じて、血のつながりや、地域のつながりを越えた共同作業をなしうる点に、ヒトの優越性を認

める議論は、昨今のインターネットを介する情報の共有を見るにつけ、説得力があります。ヒトの脳は新皮質が発達している点に特徴がありますが、インターネットは、今や、個々人の新皮質の上に、もう一層の新々皮質を重ねた観があります。神経細胞がネットワークを形成して、ある閾値を超すと、にわかに意識が芽生えるように、70 億のヒトがつながりあうと、地球全体を覆いつくす、別次元の意識が生じて、思いもよらない事態が近々、起きそうな予感がします。なお、この本の著者のスピーチは TED でも視聴できます。

“Nature via Nurture”

手練れのサイエンス・ライターの本で、「ゲノム」「エピゲノム」の理解に役立ちます。分子遺伝学を勉強する一助として名前を挙げました。”The Rational Optimist”も同じ著者の本です。世の中は時代を下るにつれて悪くなると、人々が考えがちなことは、終末論、末法思想を持ち出すまでもなく、「昔は良かった」「今時の若い者は」とこぼす年寄を見れば明らかですが、落ち着いて辺りを見回せば、衛生状態は向上し、食糧事情は好転し、寿命は延び、残虐行為は減少し、識字率は高まり、個人の権利は尊重される方向に進んでいる事実は明らかで、本書の題名通り、理性的に判断するならば、人類の未来を楽観して然るべきです。とはいえ、もちろん、イスラム国やら北朝鮮やらソマリアやら問題は尽きず、本当に人類の未来は明るいのかと疑問符も残るところですが、二十歳前の新入生の皆さんにおいては、将来を悲観するより楽観する方が建設的でしょう。本書では環境問題にも触れられています。トウモロコシやサトウキビからバイオ燃料を取り出すのはナンセンスという主張には賛同できます。人類は残虐性を抑制し、徳性を高めているという主張は、ハーバード大学の Steven Pinker 教授の主張に通じます。Pinker 教授には”The Better Angels of Our Nature: Why Violence Has Declined”という本があります。私はこの本は未読ですが、Pinker 教授の講演を TED で拝聴しました。

“Bryson's Dictionary of Troublesome Words“

実りが少なかったこの一年間の読書の中で、一番面白かったのが、実は、この本でした。随筆家として知られる Bill Bryson が、英語の誤用について辞書形式でまとめた本で、英語を書く上で大変に役立ちます。どのように、役立つかと言いますと、勇気づけられる。New Yorker や Times などの一流の雑誌、新聞に寄稿された文章から誤用例が引かれています。英語で文章を書くことを職業にしている専門家でさえ、多々、誤った英文を書く。少しほっとした気持ちになります。この本に続けて、Ambrose Bierce の”Write It Right: A Little Blacklist of Literary Faults”という本を読みました。100 年ほど前に書かれた 100 ページ

程度の薄い本です。ところが、これを読んで驚きました。例えば **endorse** は小切手の裏書きをするなどの商業用語であって **approve** に使うのはよろしくないとある。**Bierce** の基準からすると、アメリカ大統領選挙の報道記事に登場する **Celebs endorse Hillary Clinton** は誤用となります。あるいは、**pay** を **give** の意味に使うのも正しくなく、**he pays attentions** も望ましくない例として記載されています。こうしてみると言葉は生き物であることがよくわかります。**Bill Bryson** 氏が否定している用法も、100 年後には認められているかもしれません。

“Big Bang”

二年前に紹介した“**Fermat’s Last Theorem**”の著者、**Simon Singh** の本です。**Matt Ridley** と同様にサイエンス・ライターとして活躍し、近くは、“**The Simpsons and Their Mathematical Secrets**”が評判になっているのですが、私は“**The Simpsons**”という漫画そのものを知らないで、読んでも本当の面白さはわからずフラストレーションを感じるだろうと懸念して敬遠し、代わりに“**Big Bang**”を読みました。数学や物理学が良いなあと思うのは、扱う対象が唯一絶対な感じがするところです。 $1+1$ は 2 であって $1+1$ が 3 になったり、 4 になったりすることはない。物理学で何らかの理論が打ち立てられると、当面の間は、その理論が通用し続けます。生物学は違います。いつでも、どこでも、例外が出現し、その数が多いので、どれが原則で、どれが例外か不分明です。その曖昧模糊としたところ、多様性にこそ生物学の面白さがあるとも言えます。少し羽の模様がかわっている、嘴の曲がり具合が異なる、葉の切れ込みの数が違う、そんな微細な差異で、新種発見の業績になります。数学や物理学は、一人の天才が、何かを証明してしまえば、それで終わってしましますが、生物学であれば、探せば、やり残されたことが見つかります。研究者としては、それはそれで有難いものの、ともすると、重箱の隅を突いて研究者人生を終わってしまう恐れもあります（さらりと書いていますが、ここには痛烈な思いが込められています）。そうした生物学の柔らかな特性に付随する落とし穴を見極め、用心する意味でも、偶には、数学や物理学関係の本を読むとよいと思います。長沼伸一郎氏の本を上げたのも、その趣旨です。三冊のうち二冊は経済学関係書に分類されますが、“**Sapiens**”と同じく、昨年の売れ行き良好書です。“**Economics Fables**”も経済学関係書に分類されます。著者はイスラエル出身の経済学者です。この本で一番、印象深い箇所は、映画“**A Beautiful Mind**”のモデルになった **John Forbes Nash, Jr.**に関する記述です。**John Forbes Nash, Jr.**自身は病気に苦しんだ人物であり、天才には天才の悩みがあるのでしょうけれど、数学的天才や、天才的芸術家には羨望の念を禁じえません。若い諸君におかれては、後悔のないよう格別の覚悟をもって、鮮烈な航

[ここに入力]

2017 年度新入生向け推薦図書案内

跡を残す人生を目指してください。Good luck!!

“The Sixth Extinction“

オバマ前大統領が 2016 年の夏休み前に買い込んだ数冊の本の中の一冊です。オバマ前大統領がこの本を読み切ったかは知りませんが、少なくとも手許にあるのは間違いないでしょう。トランプ大統領は、果たしてこの手の本を購入するでしょうか。環境問題で最初に思いつく政治家は、アメリカ合衆国の大統領になりそこねたゴア元副大統領です。「不都合な真実」を語るゴア元副大統領の講演も TED で視聴できます。環境問題の捉え方は、純粋に科学的な議論を行ったとしても、結論に開きがあり、そこに心情的な要素が加わると、さらに、乖離が大きくなるようです。先述の”The Rational Optimist”を読んでも、このことは感じ取られます。“The Sixth Extinction“では、人類の活動が生物多様性を失わせている事例が、次々と紹介されますが、筆致は淡々としていて情緒的でなく好感がもてました。人類史上で最初のエコロジストと思われるのが Alexander von Humboldt で、その伝記が”The Invention of Nature”です。Humboldt は日本ではあまり知られていませんが、存命中は大変な名士であったようです。フンボルト海流やフンボルト・ペンギンのフンボルトです。八十数年の人生をコツコツと学問一筋にかけた姿勢が、学生諸氏に何らかの感興を呼び覚ましてくれると嬉しいです。